



2023 学びの丘学園

第2号

6月2日発行

おかのうえのぼくら

文責: 学びの丘学園コーディネーター 上野陽二

学びの丘学園運営協議会スタート

第1回学びの丘学園運営協議会が5月12日（金）午後6時30分より開催されました。

◆次の方々が学園運営協議会委員として委嘱されました。（内容を簡潔に報告します。）

役 職 等	氏名（敬称略）
福岡教育大学 教授	伊藤 克治
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会ジェンダー平等推進会会長	牟田 貴美子
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 事務局長	塚本 訓康
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 主任児童委員	小橋 由紀子
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 青少年育成部会部会長	永見 真二
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 青少年育成部会副部会長	占部 光保
自由ヶ丘コミュニティ運営協議会 広報委員長	今津 理恵
自由ヶ丘小学校 PTA 前会長	船越 政彰
自由ヶ丘小学校 PTA 会長	北野 雅英
自由ヶ丘南小学校 PTA 会長	土屋 学
自由ヶ丘中学校 PTA 前会長	荒木 慶行
自由ヶ丘中学校 PTA 会長	林田 宏貴
自由ヶ丘南小学校 校長	青野 慎一

学園教育目標

ふるさと「学びの丘」を愛し、夢に向かう子どもの育成

—学園・家庭・地域が思いを一つに手を携えて取り組む小中一貫教育 CS の展開—

なお、めざす子ども像を学校・家庭・地域の目標として、それぞれが推進していきます。

重点目標

自己教育力（本気で学ぶ心）と協働的学習力（学びあう心）を身に付けた子どもの育成

自己教育力

めざす子ども像

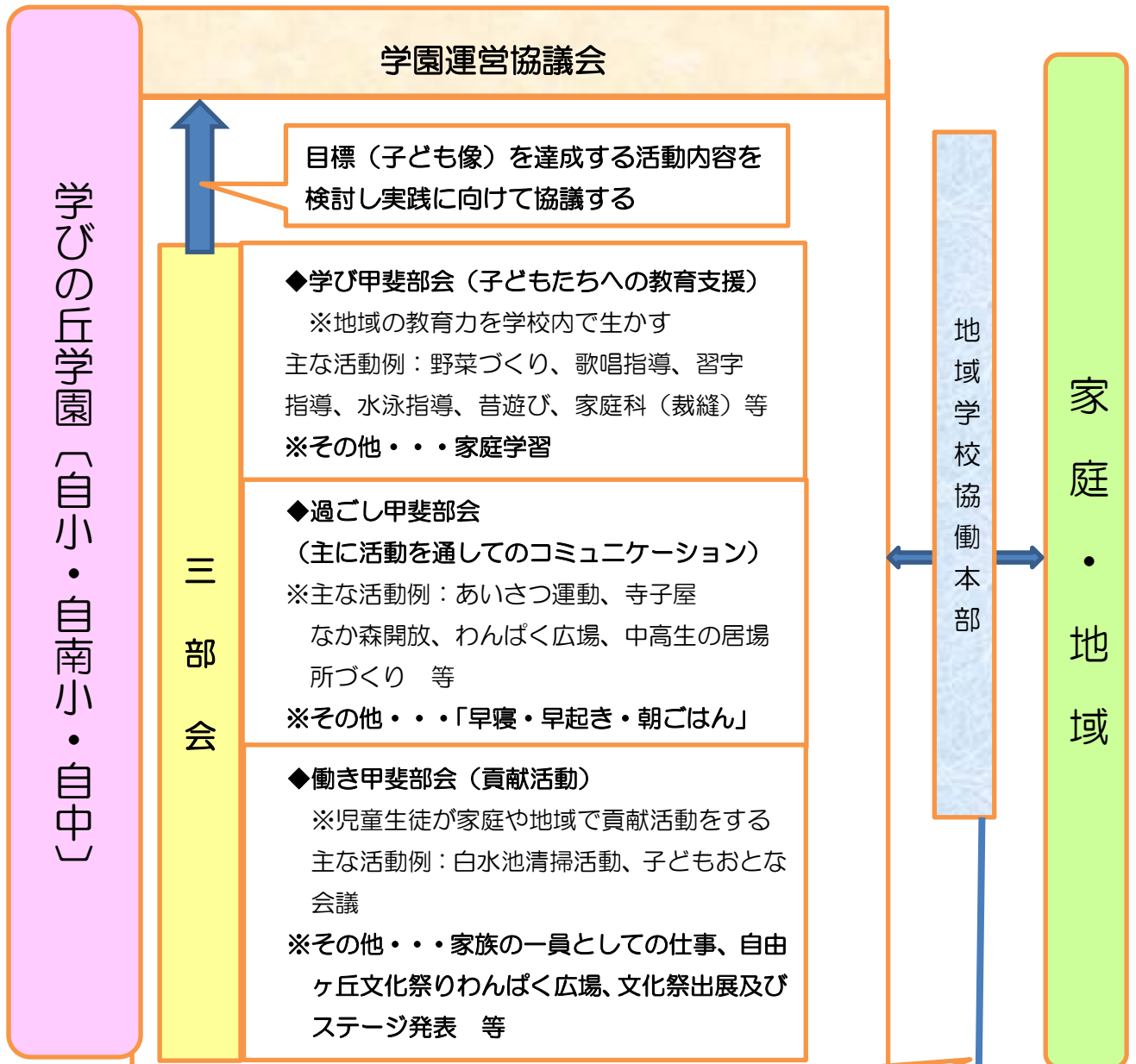
協働的学習力

自ら課題を見出し、主体的に課題解決に向けて学び続ける子

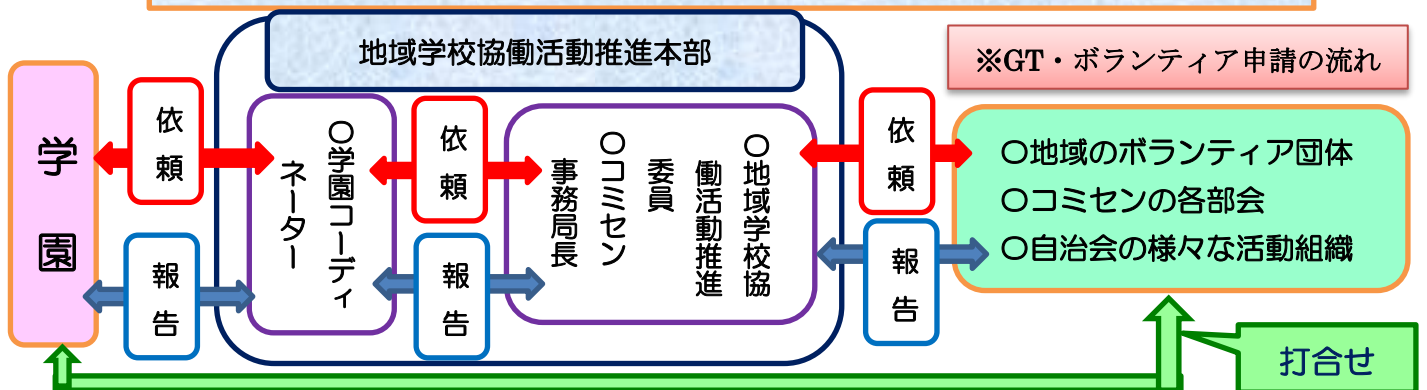
子ども同士、あるいは多様な他者と共同し学び続ける子

「コミュニティ・スクール」って何？

「学びの丘学園」学園運営協議会を学園（自小・自南・自中）に設置すると自動的にコミュニティスクールとなります。コミュニティ・スクールとは、学校・地域・家庭総がかりで子どもを育てることです。よって、学校の教職員・保護者・地域住民全員が子どもたちを育てる当事者であるということです。



学校・家庭・地域の連携を図り地域を生かす活動を推進する協働本部



第1回学びの丘学園運営協議会熟議（3部会）・・・目標と具体的活動を考える

各部会で出された意見

学 び 甲 斐 部 会	◇高齢者と子どもの交流〔体験活動とボランティア〕・・・施設訪問（歌） ◇優れた地域の人材活用 ◇ボランティア内容を早めに知らせてほしい ◇小中学校の連携（つなぐ）・・・学習で、体験活動で、ボランティアで ◇体験の場づくりと時間設定 ◇わくわくワーク → 仕事、職業について学ぶ場が設定されていない なぜ学ぶ？ → 子どもの姿（自分が活動することで〇〇がよくなる） ◇赤ペン先生・・・地域・家庭・中学生
過 ご し 甲 斐 部 会	◇なか森開放 ◇わくわく体験教室 ◇中高生居場所づくり ◇子育てサロン ◇自由ヶ丘文化祭り ◇PTA 主体講演会（予算？） ◇助産師講和
働 き 甲 斐 部 会	◇地域の活動を子どもたちが知る → 子どもたちの活動への参加から参画へ ◇クリーン作戦の場所の検討 → 集合場所を白水地（ごみを拾いながら池に集まる） ◇拾って（活動して）よかったと思えるように（評価） ・ボランティアポイントカード制 ・文化祭りでの表彰（イベントと兼ねる） ・拾ってきたものと一緒に写真をとる ◇地域で困っている方の話をする（民生児童委員からの話を聞く） ・お年寄りのゴミ出しの手伝い ・花植え ◇「おかげさま」というお互いの感謝の言葉 ◇『元気』発信

児童生徒の考えや
意見を取り入れる
（継続するアイデ
ィアを生み出す
ため）

【伊藤先生の話より】

学びの丘学園運営協議会は、目標を定め、目標（児童像を含め）を共有している。

子どもを育てるため、何ができるのか。 → こんなこと（価値を考える）

取り組みの充実 → 持続性 → 広げる・・・この流れを念頭に置く

※『活動あって学びあり』・・・伸びたところをみとって評価する（学びと評価の一体化）

場の設定 → 活動（声をかける） → スタンプカード（足跡を残す。）

〔子どものみとり〕 こうしたい・・・こんなことして・・・こんな姿に

↓ やったことをどうみとるか （評価の在り方）

※子ども主体で活動を盛り上げることが大切

（例）CS 活動推進委員会に地区代表の生徒が出席し、区長さん等と一緒に協議する。

地区別生徒総会で協議決定したものをおろし、生徒全員で共有し、活動をモニタリングし応援する。

◇「子どもおとな会議」・・・目標、活動を共有することで、子ども主体の活動が広がる。

- ◇白水池クリーン作戦 → なぜきれいなのか（地域の人々の努力）
実践を通してやりがい意識させる
- ◇中高生の居場所づくりが必要

現在までの地域の人材を生かした教育活動



家庭科：本返し・半返し縫いを使った小物づくり



プランターを使ってのミニトマトづくり



※現在、地域の人材を生かした教育活動の依頼がある内容

- ◇合奏指導 ◇習字 ◇家庭科（玉止め、玉結び等） ◇プール監視 等

自由ヶ丘南小学校での寺子屋開始

コミセンでの寺子屋は、一昨年度より実施されてきました。しかし、コミセンが自由ヶ丘小学校校区にあるため、自由ヶ丘南小学校の児童は、保護者の送迎ということが影響し、開設当初来ていた児童の足も遠ざかり、参加者なしの状況にありました。昨年度、「南小学校の校区内にも寺子屋開設を」ということで、検討し、自由ヶ丘南小学校長（青野慎一先生）に相談し、5月13日（土）から活動を始めました。5月13日（土）は13名、5月20日（土）は11名の参加がありました。子どもたちは、自分の課題を持参し、課題と向き合っていました。うれしかった光景が、上の学年の子どもが後輩に教えながら自分の課題に向き合っていたことです。中には、途中まで一生懸命後輩の勉強を見ていて「後は先生お願いします。」と自分の課題に取り組む児童もいました。このような子どもが増えていくと、昔の縦の関係（先輩が後輩を育てる）が復活するのではないかと期待が持てます。

寺子屋について

寺子屋は、自由ヶ丘コミセン（2階D会議室）と自由ヶ丘南小学校（児童交流ルーム）で行っています。

◇自由ヶ丘コミセン会場（月4回、毎週土曜日13：00～16：00の3時間）

◇自由ヶ丘南小学校会場（月4回、毎週土曜日10：00～12：00の2時間）

※自由ヶ丘小学校・自中ヶ丘南小学校の児童は、どちらの会場に行ってもかまいません。

※寺子屋の開催期日は、自由ヶ丘地区コミュニティ運営協議会発行の広報紙『ひろば』の毎月の行事に掲載されています。また、両小学校の安心安全メールでもお知らせしていますので、ご確認ください。

※寺子屋のボランティアを募集しています。中学生で興味のある方や、後輩のために頑張ってみようと思う方は、自由ヶ丘地区コミュニティセンター【32-5594】にお知らせください。